

## 小笠原のノネコ引越し作戦 海を越えて命を守る「小笠原保護猫プロジェクト」

新ゆりがおか動物病院院長

小松泰史

(公社)東京都獣医師会は、2005年5月から、(NPO)小笠原自然文化研究所、環境省、東京都などと連携して、本土から約1000km離れた小笠原諸島の希少鳥類保護のために捕獲されたノネコ(野生化したネコ)を殺処分することなく、その命を里親までリレーしようと活動してきました。

2005年5月に、母島南崎で大型海鳥のカツオドリを捕食しているところを、監視カメラで撮影され、1ヶ月後に捕獲された「マイケル」を皮切りに、2026年1月現在まで、約1200匹の野生化したネコが約25時間、小笠原丸に乗って竹芝桟橋に到着、東京都獣医師会所属の動物病院190ヶ所に馴化のため搬送されています。

病院に搬送されたノネコは、およそ1ヶ月から3ヶ月の馴化の後、家ネコとして約90%が新たな飼い主宅、残りの10%ほどが院長、スタッフの自宅で家族の一員になりました。



カツオドリを捕食したマイケル



捕獲されたマイケル

小笠原諸島の鳥類は、小笠原諸島が海洋島のため、翼を持たない陸上動物が存在しない中で進化したために、絶滅危惧種のアカガシラカラスバトなどは警戒心がなく、地上に降りて餌を歩きながら食べる習性があります。このため、人とともに移り住み、飼い主と別れた後、野生化の一途をたどった「最強の外来種」であるネコのために、その多くが捕食され、生存数が2005年には40羽程度の絶滅寸前までになりましたが、「鳥の命を守り、ネコの命も守る」小笠原の「ノネコ引越し作戦」が20年を経た現時点では、1000羽程度(繁殖鳥)にまで増えてきています。またマイケルが捕獲された母島南崎では、2009年にはオナガミズナギドリの繁殖地が復活、2014年5月13日に10年ぶりにカツオドリの巣、繁殖が確認され、9月19日に若鳥が巣立ちました。2025年母島南崎ではカツオドリのヒナ6羽が無事巣立ちを迎えることができました。これは2014年の繁殖再開以降の最多タイ記録です。

この間、2010年には小笠原諸島の自然遺産登録審査のために来島したユネスコの小笠原現地視察団による調査において、「希少鳥類の繁殖が確保されつつある」とともに、諸外国にお

いては、自然環境保全のために殺処分の対象になるノネコが、日本の多くの人々、団体の協力によって命が守られているこの「ノネコ引越し作戦」は「人道的で、すばらしい」との高い評価を得ました。これらの評価もあり、2011年6月19日(日)から、フランスのパリで開催されていたユネスコの第35回世界遺産委員会で「小笠原諸島」の審査が行われ、6月24日深夜(日本時間)、世界遺産一覧表へ記載することが決定され、世界遺産委員会最終日(6月29日)に、「世界自然遺産」として正式に記載登録されました。



馴れたマイケル

東京都獣医師会では「ノネコ引越し作戦」の他に、2007年から年に1回、「小笠原動物医療派遣団」を現地に10年間派遣しています。活動は、診療を行うとともに、小中学生を対象とした次世代育成事業として「自然と共生した島の暮らしの実現」をテーマに講義を各小中学校で行ないました。現在でも小学5年生を対象に毎年このテーマで講義が行われています。2017年に小笠原世界遺産センターが完成、施設内に動物対処室ができたためその役割は終えましたが、派遣団派遣の際には、富士フィルムメディカル(株)に血液検査等の機材を提供していただき大変有意義な活動になりました。現在も富士フィルムVETシステムズ(株)に小笠原保護ネコの健診サポートを通じて小笠原保護ネコプロジェクトの活動にご協力いただいているます。感謝申し上げます。



10年ぶりの南崎カツオドリの繁殖 若鶩の巣立ち